

思いを馳せた舞台が今ここに

美しく、繊細な演技を見てください

—馬場馬術と障害飛越—

国体で行われる「馬場馬術競技」、
「障害飛越競技」。

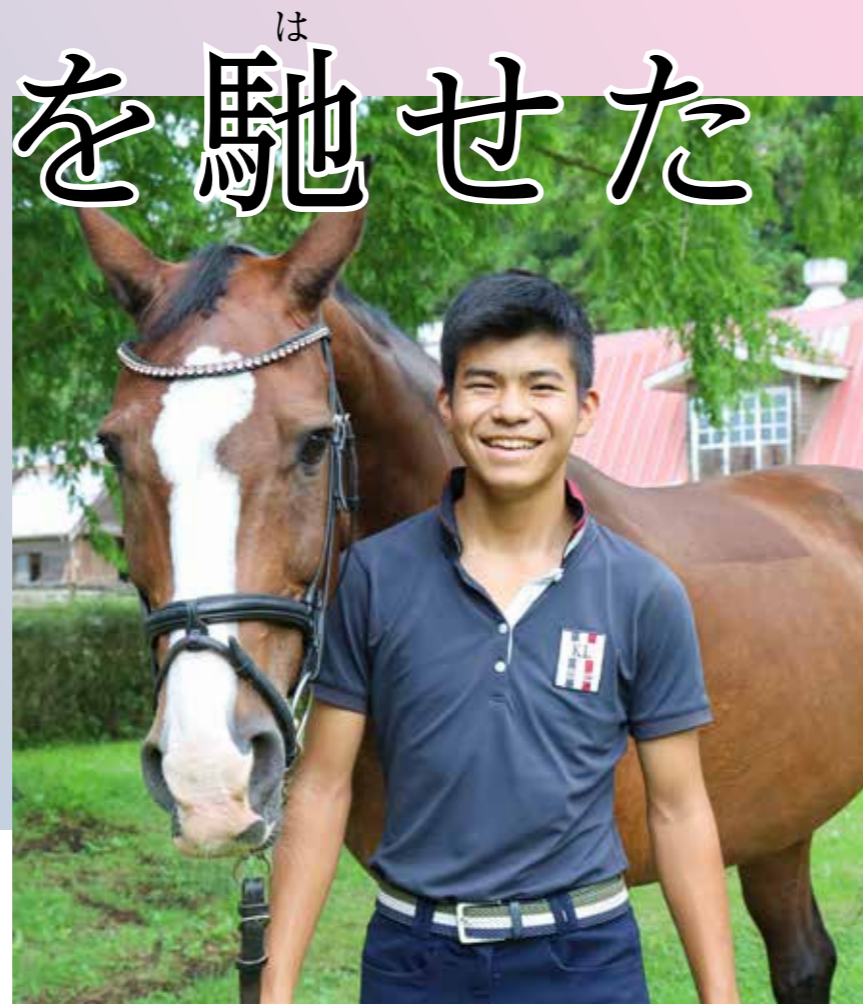
馬場馬術競技は、馬場内で3種の歩き方である常歩、速歩、駈歩でさまざまな運動を演じて、馬の調教レベル、騎手の技量を競い、技術点と芸術性評価点の合計で順位を決定します。

障害飛越競技は、場内に設けられたさまざまな障害物をミス無く跳び越し、スピードや耐久力、飛越能力を競う競技です。

鍋掛牧場所属

馬場馬術競技(種別：少年)

渡邊 心 選手 (高校1年生)



—初めての国体をここで—

本市で開催される『馬術競技』。馬術競技は他のスポーツと異なり、馬と選手が一体となって参加します。選手が馬の能力を最大限に引き出し、馬も選手の要求に精一杯応えようとする関係が結ばれたとき、『人馬一体』の妙技が繰り広げられます。今回の馬術競技には、本市から国体に初挑戦する若き候補選手たちがいます。初めての国体を那須塩原で。競技に懸ける熱い思いを聞きました。

那須トレーニングファーム所属

障害飛越競技(種別：少年)

瀧田 玲 選手 (高校2年生)



▲同じ那須トレーニングファームに所属する廣田大和選手(写真左)は、優勝を競い合うライバルであり尊敬する選手でもある

—出る種目は全部勝ちに行きます！—

愛馬と仲間と、チームで勝利を

小学2年生のときに家族で乗馬体験に訪れたことがきっかけで馬術を始めたという瀧田さん。「最初は馬を『乗り物』という気持ちで見えていました。でも、触れ合ううちに馬の気持ちが伝わってきたり、私の気持ちを馬が感じ取ってくれたりするようになって、パートナーになっていきました」と、馬への愛情をにじませます。

慣れてきては落馬をし、乗ることが怖くなったことも。それでも、「馬術を辞めたいと思ったことはありません。パートナーである馬と一緒にやるスポーツで、同じチームの仲間もいて、一人じゃないから」と、力



▲本格的に馬場馬術を始めてから短期間でめきめきと頭角を現し、大会で優勝を飾るまでに

馬場馬術競技に魅せられて

馬術のインストラクターをやっていた母を見て育った渡邊さんは、小学1年生のときには自然と手綱を握っていました。そして中学2年生の冬頃から、鍋掛牧場で本格的に馬場馬術の腕を磨き、今年の4月に黒磯南高校に入学。国体出場を目指して練習を重ねる日々を送っています。

毎朝5時には馬の元に行き、世話や練習を始める渡邊さん。「今はとにかく馬場馬術が楽しくて仕方がありません。障害飛越もやっていたのですが、馬場馬術に魅せられてしまつて」と、笑顔。

「馬場馬術は見た目よりもずっと

強く答えてくれました。

障害飛越競技の見どころを聞くと、「ただ速く走ることだけではなく、障害を落とさずに飛べるか、しっかり着地をすることができるか、ドキドキを楽しんでほしい」と瀧田さん。

「この国体を目指して練習してきました。多くの人に馬術を知ってもらう機会になればうれしいです。優勝目指して頑張ります！」と、国体への意気込みを語ってくれました。



▲愛馬「グッドルーカス」との息の合ったジャンプは迫力満点

体力を使います。できるだけ小さな動きで馬に指示を出し、常に美しい姿勢で呼吸を整えなければなりません」と、渡邊さんは言います。練習後には酸欠で倒れそうになることもあるそうです。「演技中に流れる曲も注意して聴いてください。国体で使う曲は、僕の年齢や性格を反映して作ってもらったものなんです」と、馬場馬術の魅力や見どころを話しながら、特別にスマートフォンで聴かせてくれた曲は、高校1年生の少年らしい、アクティブでワクワクする、力強いものでした。

「国体までの期間でレベルアップして本番に挑みたいですね。目の前のことに一生懸命取り組んで、優勝を目指します」と、真剣なまなざしで決意を見せる場面も。タッグを組んで半年ほどというパートナー「ジキータ」と挑む国体での活躍に目が離せません。



▲指や足の繊細な動きで馬に指示を出し、美しさを競う



▶広報なすしおばら平成27年6月20日号で表紙を飾る、当時小学4年生の瀧田さん。幼少期から馬と共に生きてきた